

## 防災学習会における気付きの重要性について

地域戦略研究所 杉原正樹

### 1. はじめに

コロナ禍により実施が難しくなっていた防災学習会も、コロナ禍が収まり少しずつではあるが企画できるようになった。そうして実施した防災学習会業務の内、A町の役場職員を対象にした研修会支援業務及び、B町のC地区で実施した住民対象の防災学習会運営業務の内容を振り返り、今後の防災学習会の参考となると思われる事例をまとめた。

### 2. A町役場職員研修会での防災学習会

#### 2-1. 避難所運営ゲーム「避難所 HUG」概要

A町役場職員研修会の研修項目として、避難所運営ゲーム「避難所 HUG」（以下避難所ゲームと称す）による避難所運営シミュレーションの支援を実施した。

今回使用した避難所運営ゲームは地震災害発生時の避難所で想定される課題にどう対応していくかをゲーム感覚で体験できる防災学習ツールである。

※1 ゲーム解説の詳細は下記に示した、静岡県 HP 内の内容を参照



避難所 HUG

#### 2-2. 実施内容

避難所ゲームは、取扱説明書に記載されている内容を参考に、参加職員を4班に分けて実施した。実施時間は感想等を述べる時間も含めて2時間を目安に実施したので、カード全てを読み上げることはできなかった。また、参加者は、女性参加者1人で、あとは全て男性で実施した。

#### 2-3. 感想内容

避難所ゲーム実施後それぞれの班で感じた内容を参加者で共有することが、避難所ゲームの重要なポイントであり、どの班でも話題になった主な項目を以下に示す。

- ①トイレの設置場所・利用方法への対応
- ②ペット連れへの対応
- ③外国人観光客への対応

避難所ゲームで設定されている課題、状況は実際の災害時に起きたことを基に設定されているので、リアルな課題が出てくる。

特にトイレについては、断水でトイレが使えない場合どうするかということであるが、穴を掘ってトイレとするであるとか、プールの水を利用できないか等アイデアが出て

きた。各班ともどこでやっても良いではないかという感想が多かったが、唯一女性がいた班だけは、プライバシーについて気を使った対応が必要であるとの感想があった。

このことから企画運営する側として、参加者についてできる限り男性、女性のバランスをとった参加者構成にすべきであることに気づかされた。

※1 避難所 HUG 参考 URL: 静岡県 HP 内

<https://www.pref.shizuoka.jp/bosaikinkyu/sonae/earthquake/bosaicenter/1003638/1043919/1030041.html>

### 3. B町の地区防災学習会

#### 3-1. 防災学習の概要

B町ではこれまで何度か防災学習会を実施してきているが、すべての住民が参加しているわけでもなく、前回実施してから数年たっていることから、再度地域の防災意識の啓発を行うことを目的に防災学習会を実施したものである。

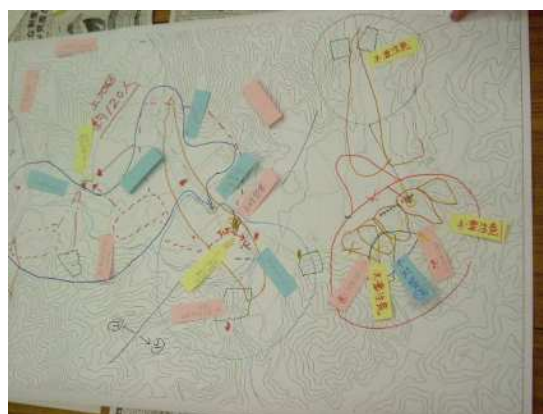
#### 3-2. 学習内容

地域の意識啓発が目的であるため、本防災学習会では地域の状況、自分の家の周りの危険個所の把握、避難所、避難場所等の把握を目的とした図上演習を実施した。

内容は、参加者を集落単位でテーブルに分け、地元のハザードマップと地域の白地図を準備し、参加者自ら白地図に自宅の場所を書き込み、ハザードマップが示す危険個所、及び避難所、避難場所等も白地図に書き込んでもらい、自らが住んでいる場所がどういふところかを感じてもらった内容とした。



自宅、危険個所の確認状況



書き込まれた地図

### 3-3. 参加者への問いかけ

今回の防災学習会では、参加者に以下の内容のアンケートをとり、ハザードマップの内容の認識度合いを見てみた。参加者が30名であり、サンプル数が少なく統計的には不足であるが、興味深い結果が得られた。

#### アンケート項目

① 今回の研修会全体について、一つ選んで○をつけて下さい。 1.よかった 2.まあまあ良かった 3.あまり良くなかった 4.良くなかった
② 指定避難所の場所をご存知でしたか、一つ選んで○をつけて下さい。 1.知っていた 2.だいたい知っていた 3.知らなかった
③ 土砂災害の危険区域についてご存知でしたか、一つ選んで○をつけて下さい。 1.知っていた 2.だいたい知っていた 3.知らなかった
④ 洪水の浸水区域はご存知でしたか、一つ選んで○をつけて下さい。 1.知っていた 2.だいたい知っていた 3.知らなかった
⑤ 津波の浸水区域はご存知でしたか、一つ選んで○をつけて下さい。 1.知っていた 2.だいたい知っていた 3.知らなかった

①については、回答者26名中、10名が良かった、16名がまあまあ良かったということで概ね学習会は好評であった。

②の指定避難所の場所については、回答者26名中、4名が知らなかったと回答があり、ほぼ避難場所は知られていることがわかった。

③の土砂災害危険区域については、回答者26名中、10名約40%の人が知らなかったという結果が出た。ただしこの内容については地区ごとの違いがあり、知らないと回答した人のほとんどが、山がない地区の人であった。

④の洪水の浸水区域については、回答者 26 名中、13 名 50%の人が知らなかったという結果が出た。ただしこの項目にも地区ごとの違いはあったが、土砂災害ほど明確な違いが少なかった。

⑤の津波浸水区域については、回答者 25 名中、10 名約 40%が知らなかったという結果が出た。ただしこの項目にも地区ごとの違いはあったが、土砂災害ほど明確な違いが少なかった。

地区ごとに地形状況が異なることから、発生しやすい災害は異なるため認知度の違いはあると想定されるが、災害種別での認知度の違いもあるということは興味深い結果となった。

#### 4. まとめ

防災学習会は、防災への意識啓発を目的として実施することが多い。また、いざという時に慌てないための心の準備のため、食糧、水、防災用品等の物質的準備のため、避難場所、避難ルートの確認等の安全を担保する準備のために行うものでもある。

しかし、学習会の時には意識も啓発され、あれも必要、これも準備しておこうと思っても、しばらくすると忘れてしまう。どうせ起きないだろうし、準備は面倒だからという思いと共に。

それでも災害が起きて初めて色々考えるより、事前に多少でも災害時に起こるであろうことを考えておけば、実際に災害に遭遇した時でも心持ちは違ってくるであろう。また、避難所のシミュレーションを通して、災害時にも人それぞれの考え方があることを知っておくことは、被災時の様々な事象に対し寛容な気持ちで向かい合うための一助となると考える。